

新見記者 豊田市下山地区から岡崎市額田地区にまたがる地域で、トヨタ自動車のテストコース・研究施設開発予定地約660ヘクタールの用地買収がほぼ完了したのを機に、去る11月24日夜、豊田市下山地区の市施設で、「しもやま里山協議会」の設立総会があり、取材させてもらいました。トヨタが開発地

## 野生と一緒に 生きる地域へ

内に残す予定の保全緑地（開発面積の約6割）を豊田・岡崎の地元7団体が管理していくという自主団体の設立でした。

新見記者 豊田市の山に「里山再生の手本」を旨説明で「里山再生の手本」をめざすと言っておられた。

山風景の大事な存在ですね。鈴木市長 そう思いますよ。それともう一つ、里山をつくるには後背の山の風景が大事ですね。周りの山を荒らしてはいけ

新見記者 これ新しい「都市型森林組合」への道かも知れませんね。最後ですが、今回のトヨタ研究施設開発地での「里山管理」を通して、鈴木市長としては、どんな地域づくりを展望されますか。

## しもやま里山協議会スタート

# トヨタ研究施設開発の 保全緑地を活動舞台に



第7代市長・美里・70歳

## 鈴木公平市長

里山の未来を描こう、という合意ができたのではないかと。夢がふくらみますね。

新見記者 地域が「野生と一緒に生きる」というのは、地域づくりのすごい発信力ですね。

7団体の会長さんのお一人の柴田剛さんという人が、設立の趣

恋の森づくり推進協ですね。鈴木市長 子供らが参加すると地域が動きますね。これもすごい発信力ですよ。

新見記者 里山というのは、森や林のほかに農地、池、水路

まで含めた自然の風景のことでしようが、子供や野生生物は里

の森林・農地を「里山」として優良管理していくんですね。これまで人工林の間伐中心の森林組合業務とは違って、里山の風景づくりも、野生の保護も、大人や子供のボランティア育成も

という、ちょっと文化度の高い新しい仕事ですね。

鈴木市長 トヨタ自動車と県企業庁のご理解のもとに、地元「しもやま里山協議会」が誕生し、地域が「里山環境を守り育てる」という類例のない町づくりが可能になったと思えます。これからの挑戦課題ですが、里山協議会の活動を通して、子供らや女性に参加する里山づくりを是非とも実現したいですね。きっと「下山ブランド」の文化や産物が生まれ、山間地域発展の先進事例になることでしょう。【文責・新見幾男】

鈴木市長 これまでの経済林経営のノウハウを生かしながら、「里山管理業」を確立していくことになるのでは。